

Book Review



一歩進んだ臨床のための エンド治療 Q & A Evidence Based Endodontics

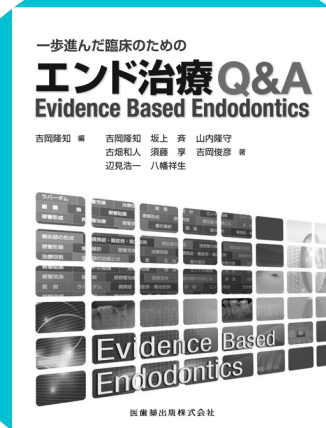
吉岡隆知 編著



Reviewer

井澤常泰 Tsuneyasu Izawa
(東京都・井澤歯科医院)

A4 判変, 128 頁
オールカラー
定価 (本体 7,500 円+税)
医歯薬出版刊



歯科界は空前のエンドブームである。根管治療に関する書籍が次々と出版され、どの講習会やハンズオンコースも盛況であると聞く。

マイクロスコープの販売台数は過去最高で、根管治療を自費で行う、あるいは根管治療専門医を目指す歯科医も増えつつある。はたしてこの状況はどのようにして起こり、いつまで続くのであろうか？ 1990 年代前半、マイクロスコープの導入により始まった根管治療の大革命は、Microsurgery, MB2, isthmus, Ni-Ti File, MTA, CBCT, Biofilm, Regenerative Endodontics など、次々と臨床のトピックスを発信し続けている。

顕微鏡下で行う根管治療はマイクロエンドと呼ばれ、当初は物好きが行う趣味の治療であると揶揄されたものだったが、それから約 20 年が経過した現在ではマイクロエンドと根管治療とは同義語となり、マイクロスコープを使用した根管治療が保険点数に加算されるまでに至った。患者の歯を保存したいという意識も以前とは比べもの

にならないほど高くなっている。

ここまで来ると根管治療の変化を静観していた歯科医も、さすがに重い腰を上げざるをえない。しかし、根管治療を再度勉強してみると、トレンドを理解し実践することは専門医でもないかぎり、一般医には難しいことに気づく。テキストを探しても、改訂に数年を要する成書では疑問の解決に間に合わず、最新の機材については企業主催のハンズオンコース等に参加するしかない。

卒前教育では最新の臨床を教育する時間はなく、卒後教育の重要性がますます高まっている等々がエンドブームの現状であり、今後この傾向はまだまだ続くことが予想され、さらには専門医育成教育へと発展することが期待される。

本書の編著者である吉岡隆知先生は、根管治療の臨床および臨床教育の新しいオピニオンリーダーであり、その経験からみずからが受けた根管治療に関する FAQ を、診断、ラバーダム防湿から最新の Regenerative End-

odontics まで、トレンドに限らず基本的な内容までも網羅し、evidence に基づいて Q & A の形式でまとめたのが本書の特徴である。どこからでも読み始めることができ、evidence として紹介されている論文は適切で最新のものが多く。

臨床での対応として書かれた解説は、簡潔できわめて客観的であり、商業的な匂いがしない。Q & A というと脈略のない初心者向けの本かと誤解されるかもしれないが、読み進むうちに経験を積んだ臨床家にも知識のブラッシュアップとして、なかなかの読み応えであることがわかる。自分の臨床をレベルアップするためには、自分が何を知らないかを知ることが一番大切であり、そのスクリーニングとしても有効である。

タイトルにある“一歩進んだ臨床のため”とは、臨床の進歩とは決してdrasticな変化ではなく、先人の教えを踏まえ、evidenceに基づき一歩先に進むことだと気づかせてくれる良書である。